東海環状自動車道

暮らしの礎 子孫に引き継ぐ〝ストック効果〟

東海環状自動車道などの整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期に得られる効果をストック効果と言います。平成17年3月の東回り開通から10年が経過し、開通区間沿線では既にさまざまなストック効果が現れています。西回り区間においても、今後の開通を見据え、ストック効果に対する多くの期待があることから、その一部をご紹介します。

一般国道475号「東海環状自動車道」は愛知県豊田市を起点とし愛知県瀬戸市、岐阜県岐阜市および大垣市などの主要都市を経て三重県四日市市に至る延長約160キロの高規格幹線道路です。

現在までに、東回り(豊田東JCTから関広見IC)の延長約76キロの区間が開通しています。西回り区間においては、大垣西ICから養老JCT間の約6キロについて平成24年9月に開通しました。そのほか、岐阜県内においては、平成29年度に養老JCTから養老IC、平成31年度に関広見ICから(仮称)高富IC、(仮称)大野・神戸ICから大垣西ICの開通見通しが公表され、各地で工事が進められています。本巣市においても、平成26年10月に本体工事の着工式が行われ、橋の土台となる橋脚の一部が完成しています。

平成26年10月に行われた本体工事着工式

完成した下部工【見延】(平成27年11月撮影)

東海環状自動車道の沿線市町では、工業団地に自動車関連企業が60社立地しました。岐阜県では、有効求人倍率が東京都、福井県に次ぐ全国3位まで上昇しています。さらに、東回り沿線に自動車産業が集積し、伝統産業から自動車産業に産業構造が変化し、西回り沿線でも、道路の開通を見越した企業立地により、将来、繊維業に代わる産業集積に期待が寄せられています。

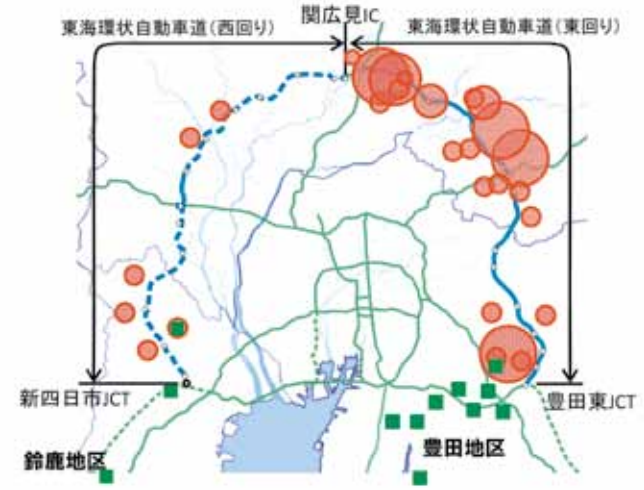
市内においても、屋井工業団地には、既に開通を見越して立地した(株)ギフ加藤製作所のほか、森松工業(株)は平成元年より中国に進出していましたが、17年ぶりに国内拠点を増設するなど企業立地の効果が現れています。

東海環状自動車道はこれら産業集積の他にも、農業や観光産業の支援、災害時の物流ルートの確保などさまざまなストック効果を本巣市にもたらすことが想定されているため、一刻も早い全線開通を期待する声が高まっています。

〈効果〉東海環状自動車道が自動車産業の集積を促進

新たに工業団地に立地した自動車部品製造企業 **60社**(H12→H25)

岐阜県の有効求人倍率
(H18.1→H27.10)
全国9位から**全国3位**に上昇



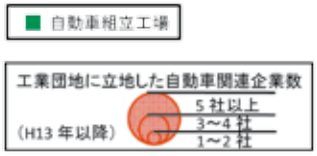
○東海環状沿線市町では、工業団地に**自動車関連企業が60社立地**。岐阜県では、**有効求人倍率が全国3位**に。

○東回り沿線（岐阜県）では、**自動車産業が集積**し、伝統産業から自動車産業に**産業構造が変化**。

○西回り沿線（岐阜県）でも、道路の開通を見越して企業立地が進んでおり、繊維業に代わる**産業集積に期待**。

自動車製造

写真提供：トヨタ自動車（株）



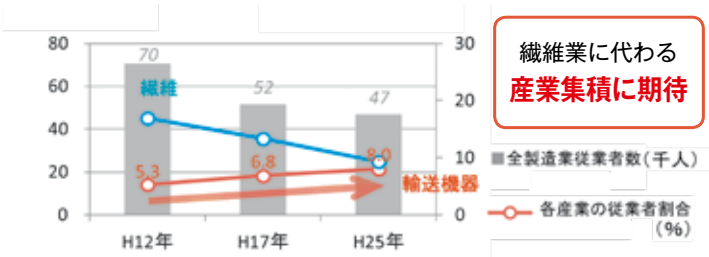
新たな産業集積に期待する西回り（岐阜県）

●産業構造の変化（従業者数）

繊維

輸送機器（自動車部品）

写真提供：（株）ギフ加藤製作所



繊維業に代わる
産業集積に期待

自動車産業が集積した東回り（岐阜県）

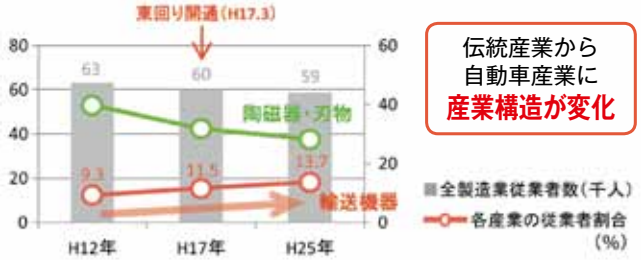
●産業構造の変化（従業者数）

陶磁器

刃物

輸送機器（自動車部品）

写真提供：豊精密工業（株）



伝統産業から
自動車産業に
産業構造が変化

出典：各県「工業統計調査」